

文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C)

## 仏教と心理療法の総合的研究

はじめに

「各人の生きている軌跡そのものが物語であり、生きることによって物語を創造しているのだ。」(河合隼雄『心理療法入門』

1)

“There is no way to happiness. Happiness is the way.” The Buddha

ここに研究課題「仏教と心理療法の総合的研究」に取り組むことができたことを深く感謝したい。この二年間で、主として国際会議(Deep Listening, Deep Hearing: Buddhism and Psychotherapy East & West. 平成 18 年 7 月 29 日～8 月 2 日 オレゴン大学ヒューマニティセンター)と研究会議 8 回を開催した。国際会議の様子はオレゴン・デイリー・エメラルド(Oregon Daily Emerald, July 27, 2006)、ユージーン・ウィークリー(Eugene Weekly, July 27, 2006, Vol.XXV, No.30)、ホイール・オブ・ダルマ(Wheel of Dharma, Vol.32, October 2006, San Francisco)の新聞等にも紹介され、300 名を超える聴衆があった。国際会議以後は、共同研究者ならびに国際会議出席者との間でリフレクションが重ねられ、自分自身の研究を顧みるとともに、「仏教と心理療法の総合的研究」に関する継続的な交流がつづいている。

特に、日米において仏教と心理療法の架け橋となっている目幸黙僊教授、河合隼雄教授の流れをくむ岡田康伸教授、倉光修教授は、専門外の私に、実にわかりやすく染みとおってくるような人間理解のアプローチを示してくださった。ユング心理学や箱庭療法がめざすものは、クライアントに対する正確な分析でもなければ、クライアントが現状に適応できるように安易に仕向けることでもない。箱庭療法にみる心理療法は、人間の心の深層にあって意識することのできないう大切な何かを尊重し、自己中心的な執着が少しずつ解き放たれていく過渡をじっと見守ることであるといっているかもしれない。河合隼雄は、心理療法の姿勢についてこう記している。

その人の意識と無意識の関係をよく知り、またそれを調整していくことをしなくてはならない。したがって、心理療法家は、その人の無意識の声に耳を傾けることが必要となる。<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 河合隼雄『心理療法入門』、103 頁。岩波書店。2002 年。

<sup>2</sup> 河合隼雄、前掲書、76-77 頁。

すなわち、心理療法がめざしているのは、クライアントが苦しみの中で制作した箱庭を通じて、その心境を解釈することではなく、時にはじっと黙って見守り、時には話を聞いて、クライアント自身の無意識から働いてくる真実に深く耳を傾けていき、クライアントが自ずと何かの出口を見出していけるように支援することであろう。内藤知康は、往生について、仏教のさとの構造と結びつけながら説明し、浄土教が歴史的に展開しながら、人々の現実に応じる形で往生思想が説かれてきたことを紹介した。親鸞の往生思想は、死の瞬間に仏の救いを待望するものではなく、今ここで救いが成就する思想(The accomplishment of Salvation here and now)を意味する。同時に、往生思想は、浄土教は人々の泣き笑い悲しむという情緒を尊重した視座でもある。ディスカッションのなかで、明らかになったことは、浄土の有相的な表現と無相的な表現との関係である。親鸞の思想には、「必ず浄土であなたをお待ちいたします」という実感的で有相的な表現と、「無量光明土」「無為涅槃界」というさとの無相的な表現がともにみられる。しかし、その有相的な表現は、空の展開としてあらわれた有、すなわち、形なきものを形に示したものであり、仏教の本質に根ざしている。杉岡孝紀教授には、すべての川を受け入れる海のように、仏の大悲もまた、さまざまな煩悩をそのまま受け入れて涅槃の安らぎに転じていくという深い優しさに満ちていることを学んだ。海野マーク教授には、自己を超えた大いなるいのちの絆に気づくことが重要であることを学んだ。マークと私の足下を支える大地のようないのちの絆が、強く感じられるようになり、そのいのちの絆が温かいものとなって自ずと働きかけてくるようになった。ジャン・澄禪・ベイ教授の「ディープリスニング」の基調講演では、私たち人間が自己の外側も、内側も、騒音や喧噪に取り囲まれていることに改めて気づかされた。そして、その心の内と外の喧騒が、深い傾聴を通して静まっていく時、自分自身や相手の本当の姿に気づき、自己を支える大いなるつながりにも気づいていけることがわかった。石原宏先生は、個を大切にすることの真意を私に再認識させてくれた。それは、個を大切にするといいても、個がかけがえのない尊さを有している反面、個はまた誰かにとって代わられてしまうようなちっぽけな存在であることも忘れてはならない、ということである。すなわち、個がかけがえのない輝きとともに、消えてしまいそうな弱さとの両面をもって存在していることを深く理解しなくてはならない。自己責任の論理だけで個人を追い詰めてはならず、そのちっぽけな個人が、大いなるいのちのつながりのなかで生かされていることに気づいていくことが大切である。そして、小さな個でも微力があることに目を開いていかななくてはならないだろう。菅生聖子研究員には、中絶した女性の苦しみを聞くことを通して、その女性が母親としてもつ罪責感よりも、いのちにたいする愛しさを痛いほど感じていることを学んだ。妊娠して亡くなった胎児の存在意味は、母子手帳やエコーの写真や胎児の足跡などに残されていることもある。悲しみはそのまま愛しみである。表にしにくい中絶の悲しみに向き合い深く理解すること、個人を超えた目には見えないいのちのつながりに気づいていくこと、それらが小さないのちを亡くした女性が求めていることなのだろう。これらの仏教と心理療法という双方からの意見交流を通して、臨床事例の場においても、教学思想の場においても、偏りのない複眼的な智慧と、分析を必要としない慈悲によって一人ひとりの人間を理解するような姿勢がきっとこれからも生まれていくだろう。

## 一 分析から深い傾聴へ

心の悩みをかかえた相手への関わり方に、「分析」(analytic approach, technical approach)によるものと「深い傾聴」(deep listening, deep hearing)によるものがある。「分析・技術」によって、相手の苦しみを理解する態度とは、フロイトやユングなどの心理分析の理論を活用しながら、相手の無意識の領域を尊重し、相手の症状を分析し理解するものである。分析によって、相手の病気の範疇を特定することができる。しかし他面、分析は、相手の人格についての理解を一つに固定化する恐れがある。分析によって、その時点での心境はその通りであっても、その症状そのままが相手の人格として特定されてしまう危険性がある。個人の心は、ユングも明かすように、「一つ一つのケースがユニークであり、まったく新しいセラピーが毎回求められる」ものである。したがってセラピストがクライアントを理解する際には、深層心理学、アーキタイプ(原型)を心に留めつつ、フロイトが記しているように、「厳格なルールを破るような心理療法」も重要である。「深い傾聴、ディープリスニング・ディープヒアリング」には、聴と聞とがある。聴くとは、こちらから相手の心に耳を傾けて聴くことである。仏にゆるされて聴くことである。聞くとは、相手の心が向こうから聞こえてくることである。仏の呼び声が聞こえてくることである。クライアントが求めているのは、症状を病気として精緻に診断されることではない。苦しみのなかで孤立しているからこそ、相手に深いいのちの絆を求めている。したがって一つの症状に固定して相手をとらえず、無限の創造性をもっている存在として、相手に接することが大切である。深い傾聴によって、相手の心は一つの心理学的な鋳型にあてはめられることなく、思いもかけない本人の創造性が働いて、自ずと変化、成長をとげていくことができるだろう。

## 二 仏教と心理療法のめざすもの

心理療法も仏教も、ある種の自我観念に囚われている状態を柔軟にすることめざし、現実の苦しみのなかでフレキシブルに生きられるように支援する。心理療法家は、悩めるクライアントに黙ってそばに寄り添い、その人間の苦しみの深層と変容過渡をじっと見守る。すなわち、セラピストが結論を急がずに、クライアント一人ひとりが苦悩のなかで個の内面に埋もれているかけがえのない物語を見出していけるように支援するところに心理療法の特質がある。一方、仏教者もまた、人間一人ひとりの苦しみの現実を静かに見守り、ともに悲しみ、その原因を深く見極めながら、苦悩する人間が安穩にいたるように広大な視座を与えていく。すなわち、仏教者が悩める人に対して、苦しみの原因が自己中心的にしか生きられない無明にあることを知らせ、どんな人も自己を超えた大いなるつながりのなかで生かされていることに目覚めさせて、根源的な救済を示すところに仏教の特質がある。

現実の苦悩を超える道は、現実世界を逃避したところを開かれてくるのではなく、現実世界の悲嘆と肯定のなかにこそ生まれてくる。煩悩や妄想を切り捨てるのではなく、その苦しみと関

わって生きるところに真の宗教的な生活があるだろう。逆に言えば、合理化された知性によって世俗化された価値観を相対化して生きるのが、近代的な人間の理想であるとするれば、仏教の人間観は、世俗化され現実世界のただなかで、輪廻する迷いを自覚しつつ、同時に、非合理的な現実もまた人間のありのままの姿として受けとめて生きること示している。混沌としたカオスの現実世界を否定的に見るだけでなく、新しい開けとしてみるというのが仏教のまなざしであるといっているかもしれない。

### 三 個の孤独さと尊さ

個の人間はもろく壊れやすく、たった独りでこの世に生まれ、やがて独りで死に帰していく。個人はそういう寂しさを本来有している。しかし、ひとは独りで生きているのではない。他の誰かに、自然に、そして仏に生かされている。一人の人間は、時間的には、何世代にもわたって数え切れないいのちを受け継いだ存在であり、空間的には、地域や国境を越えてさまざまないのちに支えられている存在である。相互に支えあい、関係し合っているこの世界において、いかなる個もかけがえがない。一人ひとりの存在がどれほど小さくもろく感じられようとも、大いなるつながりのなかにあるかけがえのない尊さを有している。どんなところにも生かされていく道がある。もしもすべてが運命によってすべて定まっているならば、この世において善いことをするのも、悪いことをするのもみな運命であり、幸・不幸もすべて運命となって、運命のほかには何もかも存在しないことになる。ついには、人々にこれはしなければならぬ、これはしてはならないという希望と努力もなくなり、世の中の進歩や改良もなくなるだろう。しかし現実世界は、運命や神のみ業によって決定されてはいない。人は誰でも思いがけない縁とひたむきな努力によって、自由に新しい人生を創造していくことができる。これが縁起思想の指し示す生き方である。

### 四 大いなるいのちのつながり

仏教から心理療法を見ると、人が人を支えているという治療的意識よりも、箱庭療法の砂や寺院の仏像に象徴されるように、自己を超えた大いなるものにクライアントも聞き手も支えられているという深いつながりに気づかされる<sup>3</sup>。仏教人間観は、人が生きとし生けるものとのつながりのなかで生かされていると省察する。たとえば、「一切の有情はみなもつて世々生々の父母兄弟なり」(『歎異抄』第五章)という文章は、生きとし生けるものが生まれ変わり死に変わりするなかで家族のようであることを表したものであり、いのちあるものすべての一体感がそこに示されている。無我とは、宇宙と自己との一体感、無差別の知見を意味する。それは宮沢賢治が「銀河系を自らの中に意識して、これに応じていくことである」(『農民芸術概論綱要』)と明かした知見であるだろう。

---

<sup>3</sup> 「心理療法においては、クライアントの自主的な生成の過程を促進する場を提供する、あるいは、そのような基盤となる人間関係をもつことが大切であり…」と河合隼雄は論じている。『心理療法入門』、122頁。

河合隼雄は相手の苦しみを聞く態度について、こう記している。

自我による納得を焦らないためには、イメージを簡単に何らかの概念や、特定の人物や事物などに置きかえるような「解釈」をすることなく、むしろ、そのイメージのもつ意味合いを味わうことが大切となる。・・・解釈をせずにそれを見守ることが大切となる。<sup>4</sup>

このように、悩める人間を分析し、操作する方向から、聞き手と話し手とが相互に関係し、深く聞いて認めあう方向に転じる必要があるだろう。

さらに、河合隼雄はこうも述べている。

イメージをいくら描いたり、その解釈をしたりしても無駄で、それを生きる必要がある。<sup>5</sup>

親鸞もまた、自己を解釈するのではなく、ありのままの自己を自覚して生きることを大切にした。親鸞は、自力で煩惱を除去して悟れないと内省し、自己の煩惱を偽らずに見据え、自己が苦しみを背負ったそのままに仏の慈悲に抱かれていることに自覚した。いかなる人も、仏の摂取不捨の慈愛に包まれているから、自らの愚かさを謙虚に知り、生を完遂することができる。死を迎えた時、ただちに浄土に往生して仏と成り、浄土に生まれた後は、還相摂化の菩薩となって人々を苦しみから救うために穢土に還ってくる。仏になるとは、死んだ後に思い出になることではない。亡き人は、現在も未来もその愛する家族縁者の心に生きつづけ、人生を導いていくから仏に成るというのである。迷いから悟りへ行き、悟りから迷いへ還ってくるという、終わりのない慈愛を育み、自利利他の幸福を願って生きることが人の存在意義となる。親鸞はこう人間の在り方について、『教行証文類』の終わりに、こう記している。

「前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ、連続無窮にして、願はくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽さんがためのゆゑなり」<sup>6</sup>

現代語訳

先に生まれるものは後のものを導き、後に生まれるものは前のものあとを訪ね、果てしなく連なって途切れることのようにしたい。ほとりなき数多くの迷える人々をすべて救うためである。

人々が惑いの多い凡夫として相互に理解し合い、先輩と後輩が死を超えて、師弟となって導きあうところに、仏教のめざす理想がある。本来の無我とは、自我を否定するものではなく、現実

<sup>4</sup> 前掲書、22-24頁。

<sup>5</sup> 前掲書、26頁。

<sup>6</sup> 浄土真宗聖典註釈版第二版、474頁。本願寺出版社、2004年。

の自我をもそのままに含みながら、先入観を離れた自由で柔らかい人格になることである。他力とは、自我を超えた仏のはたらきであり、大地に支えられているような安心感を人々にもたらすものである。

深い傾聴(ディープリスニング・ディープヒアリング)は、審判を加えずに、そばによりそう慈悲である。深い人間理解は、相手に対する分析や評価によってのみもたらされるものではない。自己と相手の底に流れる深いいのちの絆が確立されることによってもたらされることだろう。

### 研究組織

- 研究代表者： 鍋島 直樹 (龍谷大学法学部教授)  
 研究分担者： 内藤 知康 (龍谷大学文学部教授)  
 研究分担者： 杉岡 孝紀 (龍谷大学文学部准教授)  
 研究分担者： 岡田 康伸 (京都文教大学人間学部教授)

### 交付決定額(配分額)

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
平成18年度	2,100,000	0	2,100,000
平成19年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,200,000円	330,000円	3,530,000円

### 研究発表

11.研究発表(印刷中も含む。)

[雑誌論文] 計(36)件(※平成18年度(17件)平成19年度(19件))

著者名	論文標題			
Naoki Nabeshima	"A Buddhist Perspective on Death and Compassion: End of Life Care in Japanese Pure Land Buddhism"			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Edited by Mark Ty Unno, <i>Buddhism and Psychotherapy, Wisdom</i> Publication	1	2006	pp.229-251	

著者名	論文標題			
鍋島直樹	「宗教と緩和ケア —いのちへの慈愛—」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	

『文部科学書オープン・リサーチ・センター整備事業 龍谷大学 人間・科学・宗教ORC2005年度報告書』	1	2   0   0   6	183-214頁
--	---	---------------	----------

著者名	論文標題		
鍋島直樹	「浄土教における死と慈愛—ビハーラの八つの視座」		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
『現代社会と浄土真宗の課題 信楽峻磨先生傘寿記念論集』	1	2   0   0   6	489-516頁

著者名	論文標題		
鍋島直樹	「阿闍世の救いの過程」		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
真宗研究	51号	2   0   0   7	93-117頁

著者名	論文標題			
鍋島直樹	「悪人の救い—アジャセ王の救いの物語」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
矯正講座	有	第28号	2   0   0   7	65-89頁

著者名	論文標題			
鍋島直樹	「銀河鉄道の夜の深層」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
龍谷パドマ	有	9号	2   0   0   7	33-59頁

著者名	論文標題			
鍋島直樹	「銀河鉄道の夜にみる賢治の妹シへの思い」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
龍谷パドマ	有	9号	2   0   0   7	62-74頁

著者名	論文標題		
内藤知康	「宗祖の証果論」		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
『龍谷教学』	第41号	2   0   0   6	99-113頁

著者名	論文標題			
内藤 知康	「親鸞の往生思想」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『龍谷パドマ7 死を超えた願いー黄金の言葉』		2   0   0   6	17-24頁	

著者名	論文標題			
Tomoyasu Naito	"Shinran's Thought Regarding Birth in the Pure Land"			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Edited by Mark Ty Unno, <i>Buddhism and Psychotherapy, Wisdom</i> Publication	1	2   0   0   6	pp.275-284	

著者名	論文標題			
内藤 知康	「親鸞と往生思想」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『死と愛 いのちへの深い理解を求めて』	1	2   0   0   7	189-206頁	

著者名	論文標題			
内藤 知康	「現世往生説の検討ー上田義文博士の「親鸞の往生思想」についてー」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『真宗学』	第115号	2   0   0   7	1-26頁	

著者名	論文標題			
内藤 知康	「一念多念証文(8)」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『季刊せいてん』	第74号	2   0   0   6	16-24頁	

著者名	論文標題			
内藤 知康	「一念多念証文(9)」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『季刊せいてん』	第75号	2   0   0   6	16-24頁	



著者名	論文標題			
内藤 知康	「一念多念証文(10)」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『季刊せいてん』	第76号	2   0   0   6	16-24頁	

著者名	論文標題			
内藤 知康	「一念多念証文(11)」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『季刊せいてん』	第77号	2   0   0   6	16-23頁	

著者名	論文標題			
内藤 知康	「一念多念証文(12)」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『季刊せいてん』	第78号	2   0   0   6	16-24頁	

著者名	論文標題				
内藤 知康	「一念多念証文(12)」				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
『季刊 せいてん』	有	79号	2   0   0   7	16-24頁	

著者名	論文標題				
杉岡 孝紀	"Metaphors in Shinran's thought"				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
真宗学	有	117号	2   0   0   8	29-57頁	

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「高齢者への心理療法的かわりに関する研究 箱庭を介したかわりから」			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『平成16・17年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書』	1	2   0   0   6	117頁	

著者名	論文標題			
-----	------	--	--	--

岡田 康伸	"Psychology and Buddhism: Attending to Sand"			
雑 誌 名	卷・号	発 行 年	ページ	
Edited by Mark Ty Unno, <i>Buddhism and Psychotherapy</i> , Wisdom Publication	1	2 0 0 6	pp.121-139	

著 者 名	論 文 標 題			
岡田 康伸	「仏教と心理療法—箱庭療法の視点から」			
雑 誌 名	卷・号	発 行 年	ページ	
『死と愛 いのちへの深い理解を求めて』	1	2 0 0 6	116-133頁	

著 者 名	論 文 標 題			
岡田 康伸	「箱庭療法の事例と展開」			
雑 誌 名	査読の有無	卷	発 行 年	最初と最後の頁
京大心理臨床シリーズ	有	第4巻	2 0 0 7	3-7頁

著 者 名	論 文 標 題			
岡田 康伸	「座談会 イメージワークによるグループワークの実際」			
雑 誌 名	査読の有無	卷	発 行 年	最初と最後の頁
『イメージによるグループワークの実際—ファンタジーグループの体験から』現代のエスプリ至文堂	有	別冊	2 0 0 7	9-36頁

著 者 名	論 文 標 題			
岡田 康伸	「ファンタジーグループの実際のでき方」			
雑 誌 名	査読の有無	卷	発 行 年	最初と最後の頁
『イメージによるグループワークの実際—ファンタジーグループの体験から』現代のエスプリ至文堂	有	別冊	2 0 0 7	82-94頁

著 者 名	論 文 標 題			
岡田 康伸	「終結について」			
雑 誌 名	査読の有無	卷	発 行 年	最初と最後の頁
臨床心理事例研究 京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要	有	第33号	2 0 0 7	11-12頁

著 者 名	論 文 標 題			
岡田 康伸	「箱庭療法の利用」			
雑 誌 名	査読の有無	卷	発 行 年	最初と最後の頁
村山正治『学校臨床のヒント—SCのための73のキーワード』金剛出版	有	1巻	2 0 0 7	159-162頁

著 者 名	論 文 標 題			
-------	---------	--	--	--

岡田 康伸	「巻頭言—京大心理臨床に携わって—」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
臨床心理事例研究 京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要	有	33巻	2 0 0 7	1-2頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「河合隼雄先生を偲んで」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
河合隼雄先生を偲ぶ会実行委員会編『河合隼雄先生を偲ぶ』	無	1巻	2 0 0 7	1-16頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「円形脱毛と抜毛症を伴う不登校の一事例—学校での友人関係と母親との関わりに注目して」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本心理臨床学会 第26回大会発表論文集	有	1巻	2 0 0 7	97頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「海 ワークショップ 成田慶一 初回面接で自主的に製作された箱庭様ジオラマ」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本箱庭療法学会第21回大会プログラム	有	1巻	2 0 0 7	44-45頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸 木村 晴子他	箱庭療法を見るためのトレーニングをめぐる—「私」の感じ方の傾向に気づく—			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本箱庭療法学会 第21回大会 プログラム/発表論文集	有	1巻	2 0 0 7	88-89頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「シンポジウム 箱庭とメルヘン—ことば遊び・砂あそび」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本箱庭療法学会 第21回大会プログラム発表論文集	有	1巻	2 0 0 7	29頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「河合隼雄先生追悼の儀」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
「追悼の言葉」	無	1巻	2 0 0 7	10頁

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「箱庭療法—ヴァーバル/ノンヴァーバル」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

『臨床心理学 特集河合隼雄—その存在と足跡』金剛出版	有	第8巻 第1号	2 0 0 8	20-26頁
----------------------------	---	------------	---------	--------

著者名	論文標題			
岡田 康伸	「教育支援における箱庭法の活用」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
藤原勝紀編著『教育心理臨床パラダイム』 現代のエスプリ別冊 至文堂	有	別冊	2 0 0 8	252-257頁

〔学会発表〕 計(28)件 ※平成18年度(10件)・平成19年度(18件)

発表者名	大会名		
鍋島直樹	人間・科学・宗教オープンリサーチセンター公開講座		
講題	発表年月日	発表場所	
「地獄の思想」	2006年6月1日	龍谷大学	

発表者名	大会名		
鍋島直樹	第19回日本サイコオンコロジー学会総会		
講題	発表年月日	発表場所	
教育講演「仏教と日本の緩和ケア—死を超えた慈愛」	2006年6月8日	ば・る・るプラザ京都	

発表者名	大会名		
鍋島直樹	真宗連合学会		
講題	発表年月日	発表場所	
「アジャセの救いの過程」	2006年6月10日	同朋大学	

発表者名	大会名		
Naoki Nabeshima	Oregon International Conference "Deep Listening, Deep Hearing: Buddhism and Psychotherapy East & West 2006		
講題	発表年月日	発表場所	
The Emancipation of Evil Beings: The Story of the Salvation of King Ajātaśatru	2006年7月31日	University of Oregon, Eugene	

発表者名	大会名		
------	-----	--	--

鍋島直樹	鳥取市教育委員会 石谷家住宅5周年特別企画 宮澤賢治・人と作品		
講 題	発表年月日	発表場所	
特別対談 宮澤和樹、鍋島直樹 「宮澤賢治の銀河世界－雨ニモマケズ風ニモマケズ」	2006年11月21日	鳥取県智頭町石谷家	

発表者名	大会名		
鍋島直樹	鳥取市教育委員会 石谷家住宅5周年特別企画 宮澤賢治・人と作品		
講 題	発表年月日	発表場所	
公開講義「宮澤賢治の童話の世界－本当の幸せ－」	2006年11月22日	鳥取県智頭小学校	

発表者名	大会名		
鍋島直樹	京都生涯教育センター 京都アスニー講座		
講 題	発表年月日	発表場所	
「宮澤賢治の銀河世界－命の悲しみと尊さ－」	2007年2月14日	京都生涯学習総合 センター山科	

発表者名	大会名		
鍋島直樹	西本願寺公開講座		
講 題	発表年月日	発表場所	
「介護から学ぶ人生－生きる意味、死ぬ意味」	2007年3月9日	東京・築地本願寺本堂	

発表者名	発表 標 題		
鍋島 直樹	「死をどう迎えるか 患者・家族の尊厳と仏教の死生観」		
学 会 等 名	発表年月日	発表 場 所	
脳外科学会	2007年7月7日	兵庫県医師会館	

発表者名	発表 標 題		
鍋島 直樹	「人生の終末と仏教」		
学 会 等 名	発表年月日	発表 場 所	
兵庫県仏教連合会	2007年7月19日	浄土真宗本願寺派神戸別院	

発表者名	発表 標 題		
鍋島 直樹	「ディープリスニング 隻手の音声」		

学会等名	発表年月日	発表場所
人間・科学・宗教オープンリサーチセンター	2007年11月15日	龍谷大学

発表者名	発表標題
鍋島 直樹・宮澤和樹	「宮沢賢治の生命観 みんなのほんとうの幸いを探しに」

学会等名	発表年月日	発表場所
人間・科学・宗教オープンリサーチセンター 冬の特別対談	2007年11月29日	龍谷大学

発表者名	発表標題
鍋島 直樹	「銀河鉄道の夜にみる心の深層と救い」

学会等名	発表年月日	発表場所
京都仏教会	2008年1月7日	京都六角会館

発表者名	発表標題
鍋島 直樹	「患者にとっての仏の存在」

学会等名	発表年月日	発表場所
宮崎ビハーラ学会	2008年1月19日	西栄寺

発表者名	発表標題
鍋島 直樹	「仏教とスピリチュアリティ 苦しみに寄り添うために」

学会等名	発表年月日	発表場所
福岡ビハーラ学会	2008年2月2日	福岡本願寺会館

発表者名	発表標題
鍋島 直樹	「愛別離苦の超克とケア」

学会等名	発表年月日	発表場所
仏教と心理療法特別研究会	2008年2月14日	龍谷大学

発表者名	発表標題
内藤知康	“How to Express/Explain Amida Buddha in the Contemporary World”

学会等名	発表年月日	発表場所
国際真宗学会	2007年8月4日	カルガリー大学 カナダアルベ ルタ州カルガリー

発表者名	大会名
Takanori Sugioka	Oregon International Conference “Deep Listening, Deep Hearing: Buddhism and Psychotherapy East & West 2006”

講題	発表年月日	発表場所

The Metaphor of "Ocean" in Shinran	2006年7月31日	University of Oregon, Eugene
------------------------------------	------------	------------------------------

発表者名	発表標題	
杉岡 孝紀	"Metaphors in Shinran", Numata Lecture"	
学会等名	発表年月日	発表場所
国際真宗学会 The Institute of Buddhist Studies, Berkeley	2007年6月6日	Jodo Shinshu Center, Berkeley, USA

発表者名	発表標題	
杉岡 孝紀	"Metaphor and the main problem of hermeneutics"	
学会等名	発表年月日	発表場所
BCA開教使研修会	2007年6月26日	Jodo Shinshu Center, Berkeley, USA

発表者名	発表標題	
杉岡 孝紀	「親鸞における宗教体験と時」	
学会等名	発表年月日	発表場所
真宗興正派教学研修会	2008年2月26日	真宗興正派高松別院

発表者名	発表標題	
杉岡 孝紀	「親鸞の宗教体験と表現」	
学会等名	発表年月日	発表場所
仏教と心理療法特別研究会	2008年3月11日	龍谷大学

発表者名	大会名	
Yasunobu Okada	Oregon International Conference "Deep Listening, Deep Hearing: Buddhism and Psychotherapy East & West 2006	
講題	発表年月日	発表場所
Deep Listening in Buddhism and Sandplay Therapy	2006年7月30日	University of Oregon, Eugene

発表者名	発表標題	
岡田 康伸	「円形脱毛と抜毛症を伴う不登校の一事例—学校での友人関係と母親との関わりに注目して	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本心理臨床学会 第26回大会	2007年9月28日	東京国際フォーラム

発表者名	発表標題	
岡田 康伸	「海 ワークショップ 成田慶一 初回面接で自主的に製作された箱庭様ジオラマ」	

学会等名	発表年月日	発表場所
日本箱庭療法学会 第21回大会	2007年10月20日	長崎ハウステンボス

発表者名	発表標題
岡田 康伸	「シンポジウム 箱庭とメルヘン—ことば遊び・砂遊び」

学会等名	発表年月日	発表場所
日本箱庭療法学会 第21回大会	2007年10月21日	長崎ハウステンボス

発表者名	発表標題
岡田 康伸	「河合隼雄先生 追悼の言葉」

学会等名	発表年月日	発表場所
河合隼雄先生追悼の儀 日本箱庭療法学会 第21回大会	2007年10月21日	長崎ハウステンボス

発表者名	発表標題
岡田 康伸	「箱庭療法と仏教」

学会等名	発表年月日	発表場所
仏教と心理療法特別研究会	2008年3月11日	龍谷大学

〔図書〕 計(6)件(平成18年度(4件)・平成19年度(2件))

著者名	出版社
鍋島直樹・長上深雪・嵩満也編	文部科学省オープンリサーチセンター整備事業、龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター。法蔵館

書名	発行年	総ページ数
『仏教生命観の流れ 縁起と慈悲』。担当論文「親鸞思想にみる生命への視座」、信楽峻磨、若原雄昭(他9名、6番目)128-163頁、	2006	245頁

著者名	出版社
鍋島直樹編	文部科学省オープンリサーチセンター整備事業、龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター。河北印刷(株)

書名	発行年	総ページ数
『龍谷パドマ7 死を超えた願い—黄金の言葉』	2006	64頁

著者名	出版社
宮澤和樹 鍋島直樹著	文部科学省オープンリサーチセンター整備事業、龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター。(株)方丈堂出版



書名	発行年	総ページ数
DVD『宮沢賢治の銀河世界－賢治の素顔が見えてくる』	2006	122分

著者名	出版社
鍋島直樹編	文部科学省オープンリサーチセンター整備事業、龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター。法蔵館

書名	発行年	総ページ数
『死と愛 いのちへの深い理解を求めて』。担当論文「仏教と心理療法の接点」81-91頁、「死と愛－源信・法然・親鸞における死の超克」231-265頁	2007	318頁

著者名	出版社
鍋島直樹	法蔵館

書名	発行年	総ページ数
『親鸞の生命観 縁起の生命倫理学』	2007	488頁

著者名	出版社
鍋島直樹	文部科学省オープンリサーチセンター整備事業、龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター。河北印刷(株)

書名	発行年	総ページ数
『龍谷バドマ9 宮沢賢治の銀河世界 みんなのほんとうのさいわいをさがしに』	2007	112頁

研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

〔研究成果に関する Web Page〕 計(1)件

鍋島直樹ホームページ Nabeshima's Website <a href="http://www.law.ryukoku.ac.jp/~nabe/">http://www.law.ryukoku.ac.jp/~nabe/</a>
---